

まもろう子どもたち つなごう私たち

第2回 in 米沢

2013年3月24日

TOPIC

教育・芸術・医療でつなぐ会 News Letter No.2

つなぐ会通信

2013
4



震災から1年が過ぎた時、関東にも多くの傷ついた人たちがいるのではという思いから、東京でワークショップイベントを開催しました。2年目の今年、東北をより身近に感じたいというメンバーの希望で、第2回のワークショップイベント『まもろう子どもたち、つなごう私たち』を山形県米沢市で開催しました。米沢市には、福島からの避難者が現在およそ2400人（一時期は4000人超）もいるとのこと。まだまだ震災は収束していないと感じます。

今回、このイベントのために動いてくださったのは、『山形賢治の学校』『おひさまえん（幼児教育の場）』のスタッフやその関係者の方々。まずは福島でのワークショップ（12年7月）、その後（12年11月）に米沢でのワークショップという流れをふまえて、今回のワークショップイベントにたどり着きました。参加者を集め、コミュニティーセンターを借り切った2日間のイベント。現地スタッフの皆さんの惜しみない尽力があってこそ成り立ちました。

プレの23日にはスタッフや子どもたちを中心として、ボート体操やクレイモデリングのワークショップ。うれしいことに24当日は、大人・子どもを合わせて70名の方々が参加してくれました。14人の支援メンバーのほとんどが前日入りして、夜遅くまで打ち合わせた甲斐があったというもの。ホールで全員が手をつないで『春の小川』を歌うオープニングに始まり、豊田先生のレクチャー、その後のグループ別のワークショップ、スタッフ手作りのおいしいランチの終了後には、個人のワークショップも。電車の出発時間ぎりぎりまで今回のイベントの「振り返り」をして、駅に向かいました。

3月も終わりの米沢市内には、溶けない雪が道脇脇にたっぶり積まれています。東京から米沢まで、新幹線で2時間あまり。近いと言えば近い、でも、遠いと言えば遥かに遠い。見えないものことは無いものと思ひ込んだり、つい忘れて後回しにしてしまいます。会って話して一緒に動けば、いっぺんに距離は近くなる。出かけて行くことの大切さを、それぞれが感じながら帰途につきました。



米沢現地スタッフの方々の感想

まだ春浅い米沢にてのワークショップありがとうございました。当日、天候には恵まれたものの、風は強く冷たい1日でしたが、会場は日だまりのように暖かく優しく、大人にも子どもにも、穏やかな空間が広がり豊かな時間が流れていました。トラウマを乗り越えるには、共に作り上げる共働と芸術そして医療の不可欠さを再認識した2日間でした。皆々様の今後の活動、活躍を祈ります。また、お会い出来る日を楽しみに。K.T.

子どもも大人も笑顔あふれる2日間でした。このつながりを今後も続けさせてください。ありがとうございました。H.Tsu.

短い時間ではありましたが、濃密で温かい時間を共有させていただき感謝の言葉もありません。米沢で活動される意義を考えてみました。もちろん被災された方々の直接支援がメインであると思いますが、前回・今回と携わった私たちスタッフの意識を通し、間接的に、つなぐ会の方々の意識が、支援を必要とする方々へのはたらきかけとして、輪が広がりがるのではないかと思います。感動は新たに再生する一歩であると思える瞬間でした。H.Ta.



活動はすべて寄付によって成り立っています。ご協力を！

寄付金振込先 ゆうちょ銀行/支店名・〇〇八/普通/口座名・教育・芸術・医療でつなぐ会
口座番号・4812266（銀行振込）/記号・1008-48122661（郵便局振込）

..... 東日本大震災ボランティアグループ 教育・芸術・医療でつなぐ会

代表 竹内真弓
運営委員 石川公子 横手千代 江崎桂子 森川佑美子
メンバー 40名
(医師・看護師・芸術療法士・オリエントミー療法士・幼児教育家・水彩教師・リズムカル
マッサージ療法士・治療教育家・ボート体操教師・手仕事講師・翻訳家など)

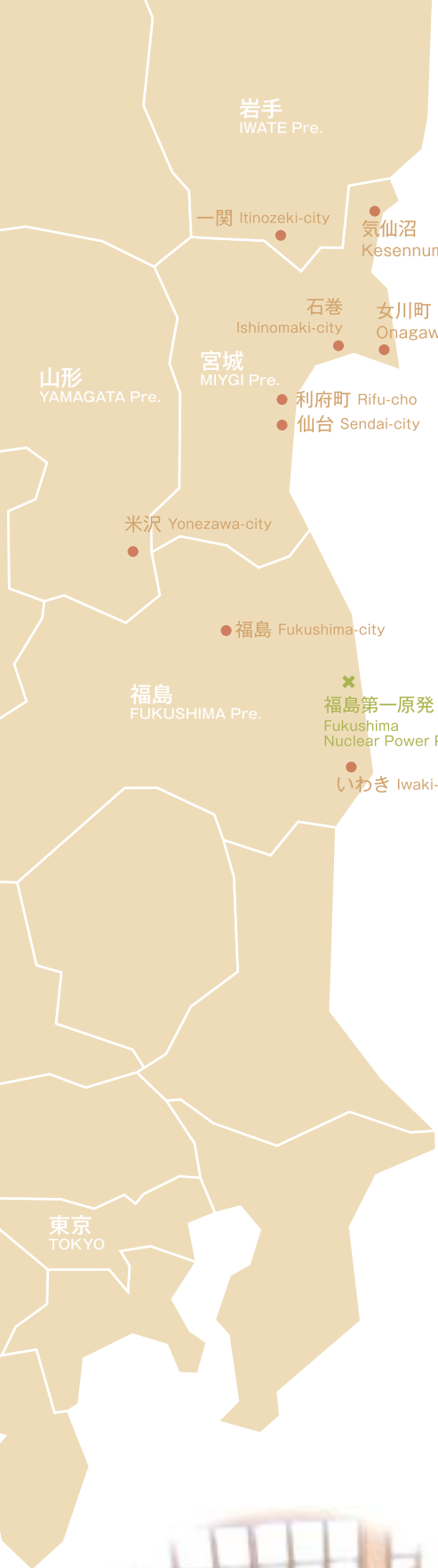
連絡先 tsunagukai_japan@yahoo.co.jp
ホームページ <http://tsunagukai.jimdo.com/>
facebook www.facebook.com/tsunagukai2011

つなぐ会通信2013年4月号 編集・写真/天鼓 デザイン/宮塚真由美 イラスト/藤 裕子

*Gemeinsam erlebte Wahrheit
ist Lebenskraft im Menschheitstreben.
Wahrpruch von Rudolf Steiner*

共同で体験された真理は
人間の努力のなかで世界の力となる。
ルドルフ・シュタイナーの言葉
訳/横手千代

写真は『まもろう子どもたち、つなごう私たち in 米沢』のワークショップ風景より



支援活動報告

2011年

3月11日 東日本大震災 東北を中心に大地震・大津波・原発事故による甚大な被害発生
4月28日～5月10日 被災地の子どものトラウマケアのため、ドイツより「教育芸術友の会」10人が来日。ケアにあたる
5月8日 ドイツチームによる東京ワークショップ(代々木オリンピックセンター)約120名が参加
同日、ドイツチームのサポートメンバーを中心として、支援の継続のためのグループ立ち上げのミーティング
「教育・芸術・医療でつなぐ会」発足(6月より毎月1回の定例会始まる)

(2011年7月～2012年5月までに12回の支援活動、2回の物品支援、1回のワークショップイベント。つなぐ会通信1号参照)

2012年

- 6月1日 宮城県利府町 ねっこぼっこ園 医療相談・アインライビング
参加者7名 支援メンバー(安達晴己・瓜生麻衣子)
- 6月2日 仙台市(竹荒さん宅) 医療相談・アインライビング
参加者11名 支援メンバー(安達晴己・瓜生麻衣子)
- 6月3日 岩手県一関市 第4回 幼児教室「風と虹」医療相談・アインライビング
参加者15名 支援メンバー(安達晴己・鶴田史枝)
- 6月9・10日 一関市 第5回「風と虹」(金田さん宅) オイリュトミー療法個人セッション
参加者8名 支援メンバー(石川公子)
- 7月23日 町田市「母ちゃんず」第1回(保養キャンプ会場町田市大地沢青少年センター)
医療相談・アインライビング・リズムカルマッサージ療法WS
参加者約20名 支援メンバー(村上典子・小川千帆・瓜生麻衣子・山本忍・竹内真弓)
- 7月29日 福島市「子どもたちを放射能から守るネットワーク」協働1回(チェンバ大町)
医師講演「シュタイナー教育から考える放射能汚染」・
アインライビング・リズムカルマッサージ療法
参加者約10名 支援メンバー(村上典子・小川千帆・竹内真弓)
- 7月29日～8月9日 福岡保養プロジェクト「風と光と子どもたち」(代表 安達晴己)への資金援助
参加者27名
- 7月31日 利府町(利府町生涯学習センター)エヴァ・ウジャラキさん講演会への資金援助
主催・福島玲子 参加者56名
- 8月24・25日 一関市 第6回「風と虹」(金田さん宅)
オイリュトミー療法個人セッション・健康オイリュトミー
参加者10名 支援メンバー(石川公子)
- 8月31日 仙台市(竹荒さん宅) 医療相談・アインライビング
参加者9人 支援メンバー(安達晴己・千田恵子)
- 9月1日 仙台市(個人宅) 医療相談・アインライビング・湿布
参加者11人名 支援メンバー(安達晴己・千田恵子・阿部一子)
- 9月2日 一関市 第7回「風と虹」お話・医療相談・アインライビング
参加者15名 支援メンバー(安達晴己・鶴田史枝)
- 11月2日 利府町 第2回(利府勤労青少年ホーム)健康オイリュトミー 参加者17名
オイリュトミー療法個人セッション(阿部さん宅) 参加者3名 支援メンバー(石川公子)
- 11月3・4日 一関市 第8回「風と虹」
3日(平泉町学童保育すぎのこクラブ)健康オイリュトミー・
オイリュトミー療法個人セッション・アインライビング個人セッション
参加者14名 支援メンバー(石川公子・鶴田史枝)
- 4日(金田さん宅) オイリュトミー療法個人セッション・
アインライビング個人セッション
参加者8名 支援メンバー(石川公子・鶴田史枝)
- 11月18日 山形県米沢市「子どもたちを放射能から守るネットワーク」協働
第2回(米沢思い出館)健康オイリュトミー・子どもオイリュトミー・
アインライビング・リズムカルマッサージ療法
参加者約30名
支援メンバー(石川公子・横手千代・村上典子・小川千帆・瓜生麻衣子・千田恵子・竹内真弓)
- 12月23・26日 相模原市「母ちゃんず」第2回(藤野やませみの家)
医師との茶話会・アインライビング・リズムカルマッサージ療法ワークショップ・
子どもオイリュトミー・ろうそくづくり・羊毛人形づくり・造形遊び・リズム遊び・
トランスペラレントづくり
参加者約30名 支援メンバー(宮地陽子・横手千代・杉本照代・天鼓・小林由香・江崎桂子・
村上典子・小川千帆・竹内真弓)

2013年

- 1月4・5日 気仙沼市(中村さん宅&「おひさま保育園」)
医療相談・アインライビング・リズムカルマッサージ療法
参加人数23名 支援メンバー(豊田茂芳・菅原知子・瀧口文子・小川千帆)
- 1月20日 米沢市「山形賢治の学校 おひさまえん」保護者へのワークショップ
第2回 医師講演「子どもと放射能」・健康オイリュトミー・
子どもオイリュトミー・アインライビング・リズムカルマッサージ療法・医療相談
参加者約20名
支援メンバー(村上典子・小川千帆・瓜生麻衣子・石川公子・横手千代・高橋和子・竹内真弓)
- 2月8日 仙台市(個人宅/仙台草の根学校) 医療相談・アインライビング 参加者3名
利府町ねっこぼっこ園 医療相談・アインライビング
参加者 6名 支援メンバー(安達晴己・千田恵子)
- 2月9日 仙台市(個人宅) 医療相談・アインライビング
参加者11名 支援メンバー(安達晴己・千田恵子)
- 3月1・2日 一関市「風と虹」第9回 お話・医療相談・オイリュトミー療法・アインライビング
参加者16名 支援メンバー(安達晴己・石川公子・鶴田史枝)
- 3月3日 仙台市・利府町「おひさまの丘」
第3回(仙台市宮城野区幸町南コミュニティセンター)健康オイリュトミー
参加者10名 支援メンバー(石川公子)
- 3月23・24日 米沢市 ワークショップイベント
「まろう子どもたち、つながろう私たち第2回 in 米沢」
つなぐ会・山形賢治の学校・おひさまえん協働主催
(米沢市東部コミュニティセンター)
23日 プレ・ワークショップ ポートマ体操・クレイモデリング
参加者16名 支援メンバー(天鼓)
- 24日 健康について医師講演・健康オイリュトミー・アインライビング・
リズムカルマッサージ療法・水彩・ライアー・人形劇・リズム遊び・クレイ遊び・
医療相談
参加者70名 支援メンバー(豊田茂芳・石川公子・横手千代・小林由香・杉本照代・宮地陽子・
村上典子・小川千帆・河内恵子・江崎桂子・天鼓・上田靖子・高橋和子・竹内真弓)

支援報告より 2012年11月2・3・4日

2日 利府町 健康オイリュトミー/オイリュトミー治療個人セッション
3日 一関市 健康オイリュトミー/オイリュトミー治療・アインライビング個人セッション
4日 一関市 アインライビング・オイリュトミー治療個人セッション

利府町は2回目、一関は5回目の訪問となりました。
健康オイリュトミーのワークショップでは、
「一つひとつの言葉の響きが全く違う心の動きをもたらして、不思議な体験だった」
「日常を忘れて動きの中に入っていた」
「心の中心から光が出て、体と心が開いていくようになった」
「体の周りに卵形の覆いのようなものを感じ、それが音の響きで整っていくようになった」
などの感想をいただきました。
初めての方も(アロマセラピストの方でしたが)
「心が開いて暖かくなった」
「心と体のバランスが良くなった感じだった」とおっしゃっていました。

健康オイリュトミーワークショップは、利府町では二度目でしたが、ワークショップの後の会食でもオイリュトミーについての興味深い質問を多く頂戴しました。また、主催者でもあるFさん、Aさんからは、シュタイナー学校設立、また幼児とお年寄りのためのスペースの立ち上げに向けてのプロジェクトの話も直接伺うことができ、おふたりの熱い語り口に、新しい生命が芽生えようとしている息吹を感じました。

一関では、依然放射能の影響下にありつつも、0・23マイクローシールベルト/hから0・18マイクローシールベルトに下がって、多少は体も楽になったようであるとのことでしたが、福岡の保養プロジェクトで得た光をそのまま持ち続けていらっしゃるようで、皆さんが力強く前を向いていらっしゃるご様子が印象的でした。

オイリュトミー療法の方も、多くの方がすでに3～5回セッションを受けていられていて(私の訪問が2～2か月半のため)、セッションの間隔が空いてしまうにもかかわらず、練習を続けてくださっていて、体と心に光が通っていく様子を拝見させていただいてとてもうれしく思っています。

アインライビングでは、継続の方5名と初めての方1名に施術を。

以前は、皆さんの不安が体に触れることからもひしひしと感じられました。8月の保養プロジェクト(福岡)に参加された方は、今回も9月に伺った時の状況が維持され、心が落ち着かれ(心のざわざわしたものが伝わってこない)、前をしっかりと向いて立ってらっしゃると感じました。

他のみなさんも、3か月ごとの訪問の間が空いてしまいが、次に伺った時は「また溜まってきたというような感じ」と言われる方もいます。今回、一進一退しながらも、少しずつ楽になっていく様子に見受けられます。

今回、一関の主催者Bさんがアインライビングのために、使っていたなかったお部屋を整え、マッサージベッドも準備してくださいました。セラピーとしての配慮された空間を作っていたいただいた事、Kさんからみなさんへの愛にとっても感謝しています。

石川公子(オイリュトミー) 鶴田史枝(アインライビング)

●オイリュトミー治療とは

オイリュトミー療法とは運動芸術療法であり、アントロポゾフィー医学の治療法の一つです。日本では病院やクリニック、シュタイナー学校、幼稚園、治療教育関係施設で、また個人のセッションという形で療法が行われています。オイリュトミーという言葉はギリシャ語で「美しいリズム」を意味しますが、ここで美しいというのは、内面と外面が調和していることを指しています。そして健康も、自然や世界と人間が調和していることを意味します。オイリュトミー療法は「西洋の気功」ともいえ、水の流れや風といった自然界の動きなどを自らの身体の動きに取り入れ、自然治癒力を目覚めさせ、体と心を調和の取れた姿へともたらします。しかし、この療法が気功などと異なるのは、人間が語る言葉ー母音と子音の一つひとつの「音の響き」を手足の動きに表し、それを療法に取り入れていることによります。例えばしという子音は水の流れと関係していますが、同時にしは、体内の血液や体液の循環とも、さらには肝臓とも深いつながりをもっています。またMという音は、日本語では「水、海、波」といった言葉の響きのなかに見られますが、この音は波のように寄せては返すような腕の動きを通して、私たちの呼吸に働きかけ、例えば喘息の時なども呼吸をリラックスさせるように作用します。一方、母音も私たちに作用を及ぼします。母音は主に私たちの心に働きかけます。例えばEという動きは腕を交差させる動きですが、交差により神経系を介し意識を目覚めさせたり、あるいは胸の前で交差させることにより心の中心を強めたりします。オイリュトミー療法は医師の下で処方され、上述のように、呼吸器系、循環器系、代謝系、また心の領域などの様々な疾患に働きかけます。
(オイリュトミー療法士 石川公子)

